NewsLetter

2026年11月25日
株式会社Arent

建設業のためのAIドッキングプラットフォーム「現場ドック（GENBA Dock）」を発表
現場が大まかに伝えたことを、AIが各業務ツールへの入力として提案。
元請と協力会社の入力の手間を減らす



株式会社Arent（本社：東京都港区、代表取締役社長：鴨林 広軌、東証グロース：5254）は、建設業のためのAIドッキングプラットフォーム「現場ドック（GENBA Dock）」を発表いたします。

現場ドックは、現場の人が大まかに伝えたことを、AIが文脈から読み取り、工程管理や品質管理などの各プロダクトへの入力として提案するプラットフォームです。担当者が確認して承認すると、各プロダクトのデータに反映されます。元請と協力会社のやり取りがそのまま各業務のデータにつながることで、協力会社の入力の手間や、元請が入力内容を確認・修正する手間を減らすことを目指します。

現場ドックは、Arentが提唱してきた「アプリ連携型」のシステム構造を、自社のプロダクトシリーズとして形にしたものです。これまで個別に提供してきた建設向けプロダクトを1つのシリーズに集約し、APIとAIで製品間のデータをつなぎます。現場のやり取りの入口として、2027年春には「現場ドック チャット」を提供する予定です。

建設業界の大手企業との共同開発を通じて蓄積してきた現場の知見に、AI駆動開発を組み合わせることで、プロダクトを短期間で開発し、2026年12月から順次リリースいたします。あわせて、お客様の業務に合わせたカスタマイズが必要な場合にはFDE（Forward Deployed Engineer）が導入を支援し、企業の規模を問わず販売を進めます。また、お客様が管理するクラウド環境上に現場ドックを構築する提供形態にも対応する予定です。

現場ドックは、2026年12月2日（水）から4日（金）まで東京ビッグサイトで開催される「建設DX展 東京」（JAPAN BUILD TOKYO内）に出展し、ブースで初めて展示いたします。

■背景

建設現場では、工程・品質・原価・労務安全など業務ごとに異なるツールが使われ、同じ情報を複数のツールに入力する転記作業が発生しています。元請と協力会社の連絡もさまざまな手段に分かれており、現場全体の状況把握に手間がかかっています。

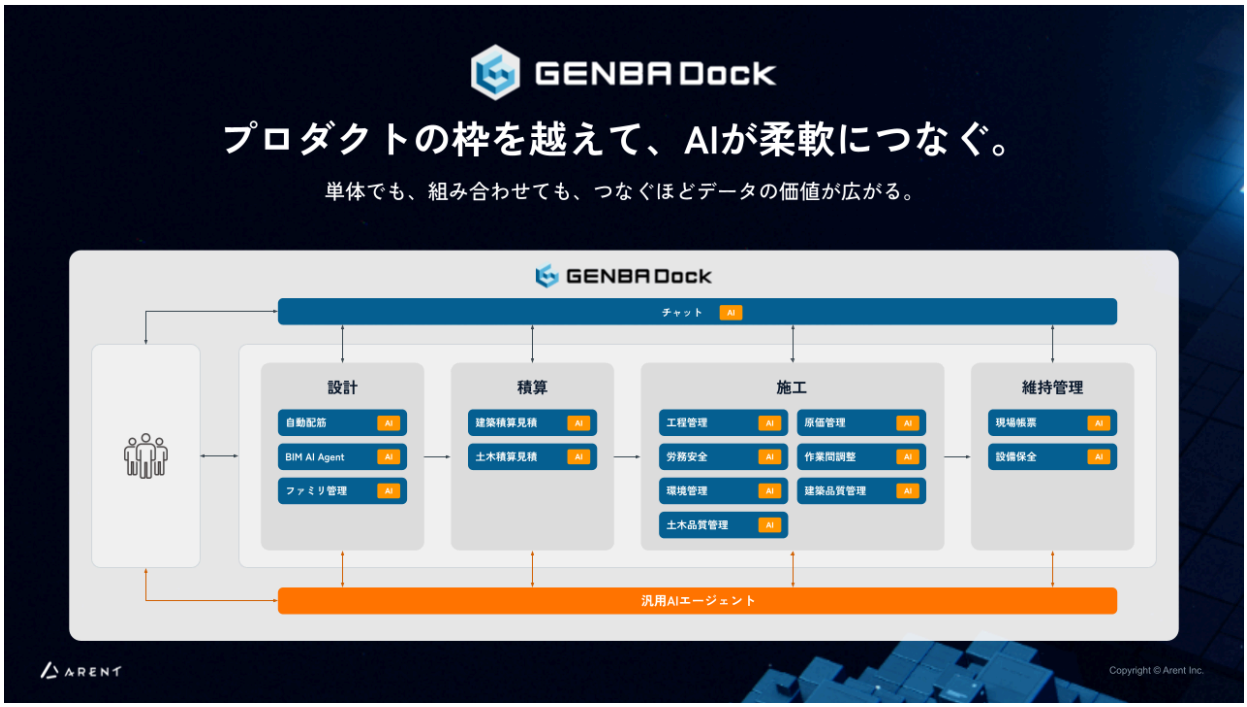
Arentはこれまで、業務ごとに適したアプリケーションをAPIやAIでつなぎ、全体として業務が回る「アプリ連携型」のシステム構造を提唱し、DX事業を通じてお客様とともに実践してきました。一方、自社のプロダクトはBIM、工程管理などの領域ごとに開発・提供してきたため、お客様が複数の製品を使っても情報はつながらず、同じ課題が残っていました。

そこで、アプリ連携型の考え方を自社のプロダクトにも取り入れ、建設向けの自社プロダクトを1つのシリーズに集約しました。製品同士がデータを共有できる共通の基盤の上で提供し、AIによる業務の補助とあわせて、今後もシリーズを拡充してまいります。

現場ドックを発表する背景と狙いについて、代表取締役社長の鴨林 広軌が解説した動画を公開しています。

▼代表取締役社長 鴨林 広軌による解説動画
https://youtu.be/Un7Wj7MyG58

■現場ドックの概要



現場ドックは、現場の人が大まかに伝えた指示や報告を、AIが文脈から読み取り、タスクや各プロダクトの情報として形にするプラットフォームです。人は意図を伝えて確認するだけで、細かな入力や整理はAIが補助します。設計から維持管理までの業務ごとのプロダクトをAPIとAIでつなぎ、プロダクトの枠を越えて情報を活用できるようにします。シリーズ化により、次のことを目指します。

1. **チャットが、現場の入口に**

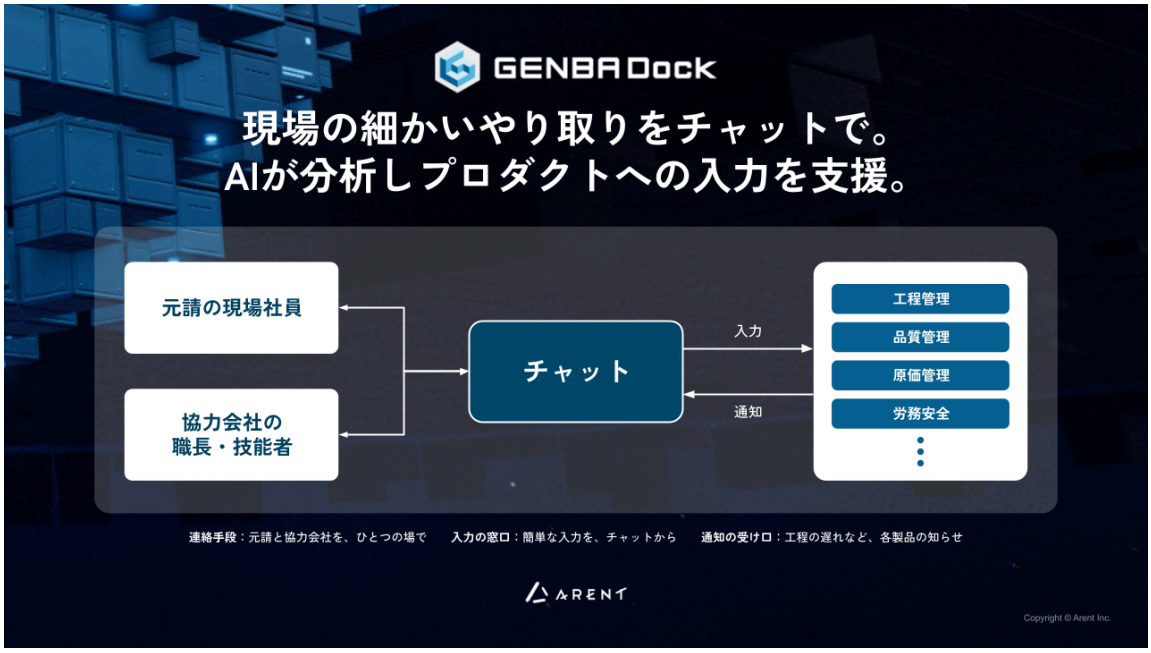
   チャットは、思ったことを最も気軽に伝えられる場所です。大まかに伝えればAIが形にするという考え方は各プロダクトに共通しており、現場ドックではまずこのチャットを、すべてのプロダクトをまたぐ入口にします。元請の現場社員から協力会社の職長・技能者まで、建設業務に関わる方々が1つのチャットで、普段どおりにやり取りします。

チャットに組み込まれたAIアシスタントは、会話の流れから「やるべきこと」や「終わったこと」を読み取り、各プロダクトへの入力を提案します。提案は、そのプロダクトを操作する権限のある担当者にだけ表示され、データが書き換わるのは、必ず担当者が「はい」を選んだあとです。

たとえば、鉄筋工事の職長がチャットで「3階の柱配筋完了、自主検査済みです」と報告し、元請の現場監督が「現地確認しました」と返すと、AIが現場監督に「『3階 柱配筋』を100%にしますか」と提案します。「はい」を選ぶと、工程管理（PROCOLLA）の該当工程の進捗が更新されます。翌日に配筋検査が完了したと伝えれば、1回の「はい」で品質管理の検査記録と工程管理の両方に反映されます。

協力会社の職長は、普段どおりチャットで報告するだけで済むため、元請から依頼される各システムへの入力の手間や、入力の誤りを減らすことにつながります。

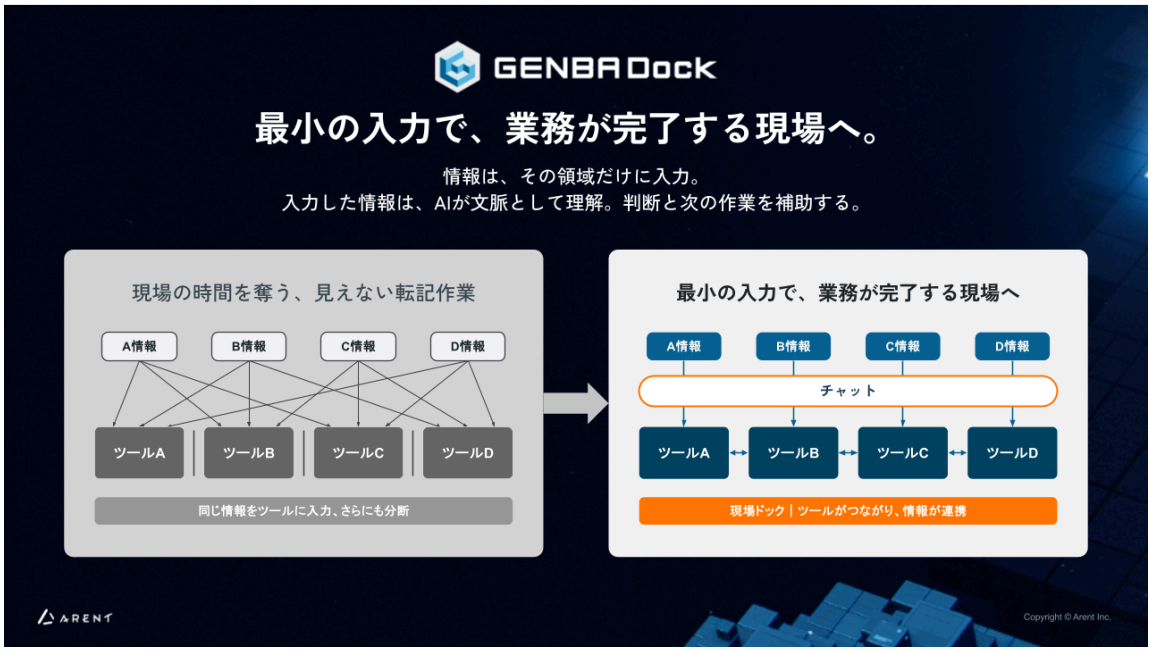
※現場ドック チャットは2027年春に提供予定です。



▼コンセプト動画
https://youtu.be/AJ9Zd_12vX0

2. 一度の入力で、情報が製品間でつながる

情報は、該当する業務の製品に一度入力すれば、ほかの製品からも参照できるようにします。ツールごとの転記作業を減らし、入力の手間を最小限に抑えます。たとえば、積算見積で出した数量と金額を、原価管理の実行予算や工程管理の工程の元として使えるようにします。



3. AIが現場全体の情報を活用できる

各製品には、製品内での入力や作業を補助するAIアシスタントを組み込みます。さらに、チャットと各製品の裏側で、全製品のデータを横断して読み取るAIエージェントの開発を進めています。たとえば所長が「今日の現場の状況は」と尋ねると、工程・品質・人員の情報をまとめて把握できるなど、現場全体の状況把握を補助することを目指

します。



4. **必要な製品から始め、組み合わせて使える**
   各製品は単体でも利用できます。必要な製品から導入し、業務に合わせて製品を追加することで、つながるデータの範囲が広がります。



※製品間の連携機能およびAIエージェントは、順次提供します。

■開発の進め方：業務理解とAI駆動開発

Arentには、大手ゼネコンや設計事務所、エンジニアリング会社で施工や設計の実務を経験した社員が在籍し、プロダクト開発に携わっています。また、建設業界の大手企業との共同開発を続けるなかで、建設現場の業務や技術に関する知見を蓄積してきました。こうした実務の知識をソフトウェアに落とし込む「業務理解」と、AIを活用した開発手法「AI駆動開発」を組み合わせ、プロダクトを短期間で開発しています。この進め方により、現場ドックのプロダクト群を早期にそろえます。



■リリース計画

現在提供中の4プロダクトに加え、2026年12月に2プロダクト、2027年春に8プロダクトのリリースを予定しています。2027年夏以降も、プロダクトを拡充してまいります。



※リリース時期は予定であり、変更になる場合があります。

2026年12月にリリース予定のプロダクトの紹介動画は、以下よりご覧いただけます。
※画面は開発中のもので、実際の製品とは異なる場合があります。

▼建築品質管理
https://youtu.be/mb40tdw0zXw
▼建築積算見積
https://youtu.be/OA0V9B8UcGw

現在提供中のプロダクトは、本日より現場ドックシリーズの名称に変更いたします。製品の内容、ご契約・お取引の条件に変更はありません。

- PROCOLLA → 現場ドック 工程管理（PROCOLLA）
- Lightning BIM AI Agent → 現場ドック BIM AI Agent
- Lightning BIM 自動配筋 → 現場ドック 自動配筋
- Lightning BIM ファミリ管理 → 現場ドック ファミリ管理

プラント向けプロダクト（PlantStreamシリーズ、ASPOシリーズ）は、プラントの設計・製作を対象としており、建設現場の業務とは対象業務や利用者が異なるため、現場ドックシリーズには含めず、引き続き各シリーズとして提供いたします。

■販売体制：FDEによる導入支援

Arentは、お客様の業務や要件に応じた形で現場ドックの導入を支援します。

- **標準の製品として利用する場合：**
  現場ドックをそのままご利用いただけます。導入後も、機能のアップデートを継続して受けられます
- **自社の業務に合わせたカスタマイズが必要な場合：**
  FDE（Forward Deployed Engineer）がお客様の組織の中に入り、現場ドックを各社の業務に合わせてカスタマイズして導入を支援します

共通のプロダクト群を基盤とすることで、標準製品の提供と各社の業務に合わせた導入を両立し、企業の規模を問わず販売を進めます。

■提供形態：お客様のクラウド環境への構築に対応予定

建設業界をはじめ、大手企業では、重要な業務データを自社で管理するクラウド環境に集約する動きが進んでいます。情報セキュリティの方針や社内規程、取引先との契約上の要請から、外部のクラウドサービスにデータを置くことが、業務システムとして本格導入する際の障壁となるケースも少なくありません。

現場ドックは、Arentのクラウド環境で提供するSaaS型を基本としつつ、今後、お客様が管理するクラウド環境上に現場ドックを構築する提供形態にも対応する予定です。お客様が利用するMicrosoft Azure（※1）やAmazon Web Services（AWS）（※2）などの環境上に構築することで、重要なデータを自社の管理下に置いたまま、現場ドックを業務の基盤としてご利用いただけるよう、体制を整えてまいります。

- **Arentクラウド型（SaaS）：**
  Arentのクラウド環境で提供します。短期間で導入でき、最新の機能を継続してご利用いただけます
- **お客様クラウド型（対応予定）：**
  お客様のAzure、AWSなどのクラウド環境上に構築します。データをお客様の管理下で保持でき、機能のアップデートもSaaS型に順次追従して提供します

これにより、企業の規模やデータ管理の方針にかかわらず、現場ドックを導入いただけることを目指します。

※協力会社と情報を共有する一部の製品（労務安全、作業間調整）は、お客様クラウド型の対象外となる予定です。
※1 Microsoft Azureは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
※2 Amazon Web Services、AWSは、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

■建設DX展 東京での展示

Arentは建設DX展 東京にブース出展し、現場ドックを初めて展示いたします。また、会期最終日の12月4日（金）には、出展者セミナーにて代表取締役社長の鴨林 広軌が現場ドックについて講演いたします。

【展示会概要】

- 名称：第6回 建設DX展 東京（JAPAN BUILD TOKYO内）
- 会期：2026年12月2日（水）～4日（金）
- 会場：東京ビッグサイト 南展示棟4階
- 小間番号：57-21

▼来場登録（当社招待URL・無料）
https://www.japan-build.jp/tokyo/ja-jp/register.html?code=1811177041646204-C1N

※主催者の規定により、2026年11月26日（木）以降に出展社の招待URL以外から来場登録を行った場合は、お一人様5,500円（税込）の来場登録料が必要となります。

【現場ドック解説セミナー】

- タイトル：つながるプロダクト群とAIで、現場の業務を変革する
- 講演番号：EX-S24
- 日時：2026年12月4日（金）15:00～15:45
- 登壇者：鴨林 広軌（株式会社Arent 代表取締役社長）
- 参加費：無料（事前申込制）

▼お申し込み

https://biz.q-pass.jp/f/13069/jb_seminar_tokyo_26?cid=exhibitor#seminar123543
※ご聴講には、セミナーのお申し込みとは別に来場登録（無料）が必要です。

■ 株式会社Arentについて

株式会社Arentは、「暗黙知を民主化する」をミッションに、建設・プラント業界のDXを推進する企業です。クライアント企業と共に課題解決に取り組む「DX事業」と、自社SaaSを展開する「プロダクト事業」の二軸で事業を展開しています。

建設業のためのAIドッキングプラットフォーム「現場ドック（GENBA Dock）」シリーズや、千代田化工建設株式会社と共同開発した、プラント配管の自動設計を実現するAI搭載3D CAD「PlantStream」などのプロダクトを提供しています。

【会社概要】

- **会社名**：株式会社Arent
- **所在地**：東京都港区浜松町2-7-19 KDX浜松町ビル3階
- **代表者**：代表取締役社長 鴨林 広軌
- **設立**：2012年7月2日
- **資本金**：12億8,600万円
- **Webサイト**：https://arent.co.jp/

＜本件に関するお問い合わせ＞

株式会社Arent
E-mail：info@arent3d.com

以上